



暖房器具の取扱いに気を付けましょう

寒い季節に活躍する暖房器具ですが、空気も乾燥し暖房器具による火災の発生が起こりやすくなります。安全な取り扱い方法や下記のポイントを確認し、火災や事故の発生を防ぎましょう。

暖房器具火災を防ぐポイント

- ・室内を整理整頓しておく。
- ・暖房器具の周囲に衣類や布団などの可燃物を置かない。
- ・暖房器具を使用したまま就寝しない。
- ・暖房器具の上に洗濯物などの可燃物をつり下げない。
- ・暖房器具の周囲や上部に不安定なものを置かない。
- ・暖房器具の周囲にエアゾール缶などを置かない。
- ・暖房器具の周囲でエアゾール缶などを使用したり、穴あけをしない。
- ・石油ストーブなどの給油は、火を完全に消してから行う。
- ・燃料がこぼれないようにタンクのキャップをきちんと閉める。
- ・適正な給油量を確認しながら給油する。
- ・誤ってガソリンなどを給油しないよう確認する。



思わぬ落とし穴!?(一酸化炭素)

石油ストーブ、ガスストーブ、ファンヒーターなどの暖房器具は、室内の空気（酸素）を使って燃焼し、排気ガスを室内に出す仕組みになっています。換気をしないで使用し続けると、室内空気が汚染されるだけでなく、室内の酸素濃度が低下し不完全燃焼が進み、一酸化炭素が急激に増加し、中毒を引き起こします。室内で暖房器具を使用するときには、定期的に空気を入れ換えることが必要です。

- ・1時間に1回以上5分間程度窓を開ける
- ・時間を決めて換気扇を回す

12/8

東搬送 1が運用開始されました!!

東搬送1が更新され、運用開始しました。この車両は、災害の種別に沿った資機材の積載・搬送に主に活用されます。



車体：2トン級シングルワイドキャブロング
小型移動式クレーン：吊り上げ能力 2.6t
テールゲートリフター：リフト能力 800kg
季節によって積載物を変えて災害に備えています。
(夏・秋季：潜水資機材、冬・春季：動噴一式)



消防本部鹿島副士長の寄稿を紹介します

世界警察消防競技大会 in ロサンゼルス

自分の世界観から 一歩踏み出す勇気の大切さ

世界警察消防競技大会に参加するために訪米して、たくさんの貴重な経験を得ることが出来ました。

普段、当本部で使用している資機材も海外から導入したものが多く、今回訪れた63分署でも共通するものが多かったのですが、一見同じようなものでも驚いたことも多くありました。

63分署のすべての車両はフランスで製造されており、消防車両には約7m(24フィート)のはしごが10本以上積載されています。

瓦の文化のないアメリカでは、煙の流れをコントロールするために屋根に登りチェーンソーで穴を開けるためはしごを多用します。それに使うはしごが全て木製だったことに驚きました。様々な観点から、日本でメジャーな三連はしごのような金属製で立体型のはしごよりも、シンプルな木製のはしごの方が使用されています。

その他にも、2階から車庫に直接降りられるポールは日本では危険性や非効率性から見かけることが少なくなりましたが、アメリカではまだまだ現役です。

今回参加したファイヤーファイターサバイバル(FFS)訓練は、災害活動にあたっている消防士が濃煙や炎により脱出できなくなってしまう

り、バディ(一緒にコンビを組んでいる相手)が意識不明になってしまう等の危機的状況に陥った場合に対処するプログラムです。

日本ではその訓練に参加できる機会がまだまだ少ないですが、自分や仲間の命を守るためにとっても重要なものだと感じました。

このような経験は、一歩外に踏み出さなければ一生知り得なかったかもしれないことであり、その一歩の勇気の大切さを身に染みて感じました。

自分の周りの環境と違った場所に身を置くことは簡単なことではありません。しかし、それ以上の素晴らしい体験と成長するチャンスが待っています。

今回の経験から、やりたいことに思いとどまっているものこそ、勇気をもって一歩踏み出していこうと思いました。

今号で、この寄稿は終了となります。ご愛読ありがとうございました。



3月号の耳より情報を募集します!

3月号のテーマは【市内お花見スポット】です。みなさんのとっておきのお花見スポットをぜひご紹介ください。2月16日(金)までに、郵便またはファックス、Eメールでお送りください。

問い合わせ 〒319-2292 常陸大宮市中富町 3135-6

政策審議室 秘書広聴課

電話 52-1111 (内線 312)

ファックス 53-6010

Eメールアドレス hishokou@city.hitachiomiya.lg.jp

QRコードからの投稿はこちらからどうぞ

